

香芝市二上山博物館

NIJUYÔSAN MUSEUM KASHIBA-CITY

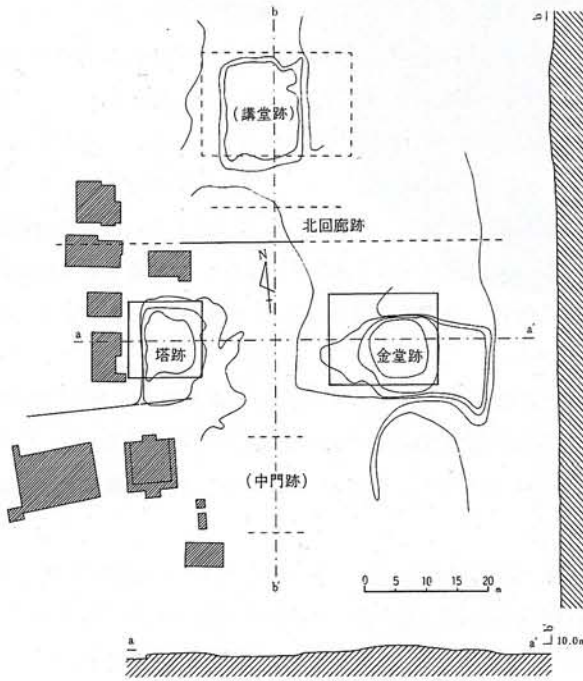
■全国初 旧石器文化を紹介する石の博物館■

二上山と3つの石 よみがえる旧石器時代

いなまひと 威奈真人

平成18年度冬季企画展 威奈真人大村没後1,300年

—二上山と火葬の文化—



猪名寺廃寺伽藍配置図 (文献①)

威奈氏の出自とその一族

威奈氏は史料により「韋那」「偉名」「為奈」「猪名」「威奈」とさまざまに表記されるが、『日本書紀』(仁徳)にみえる「猪名県」、のちの『倭名類聚抄』にみえる「摂津国河辺郡為奈郷」の地名に通じ、為奈郷の旧域とされる兵庫県尼崎市の東北部が本拠地であったと考えられている。威奈氏の建立とされる猪名寺廃寺やその周辺で掘立柱建物跡が検出された中ノ田遺跡、南本町遺跡(伊丹市)等は威奈氏の拠点的な集落ではないかとされる。

威奈氏は、『日本書紀』の天武13(684)年12月、「是日、守山公・路公・高橋公・三國公・當麻公・茨城公・丹比公・猪名公・坂田公・羽田公・息長公・酒人公・山道公、十三氏、賜姓日真人。」とみえ、八色の姓(真人・朝臣・宿禰・忌寸・導師・臣・連・稻置)制定の際、

守山公ら13氏とともに真人姓を賜っている。

その出自について、『古事記』(宣化)には、「川内之若子比売生、御子。火穂王。次惠波王。此天皇之御子(中略)故火穂王者。志比陀君之祖。惠波王者。韋那君。多治比君之祖也。」とみえ、『日本書紀』には、「橘 仲皇女為皇后(中略)上殖葉皇子。亦名梔子。是丹比公・偉名公、凡二姓之先也。前庶妃大河内稚子媛生一男。是日火焰皇子。是椎田君之先也。」とある。この火穂王(火焰皇子)と恵波王(上殖葉皇子)の母親について記紀に混乱がみられるが、宣化天皇の皇子、恵波王が猪名公・丹比公の祖であるとする点は共通している。しかし、火穂王の後裔とする史料がある。平安時代初期に成立した『新撰姓氏録』は、丹比公については、「多治真人 宣化天皇皇子賀美惠波王之後也」とあるが、猪名公は「為奈真人 宣化天皇皇子火焰王之後也」とみえる。また、『三代実録』の貞観5(863)年条に、「摂津国河邊郡(中略)大膳大進正六位上為奈真人菅雄等五人之戸。(中略)宣化天皇皇子火焰王之後(中略)未可徴課役也。」とみえ、火穂王の後裔ということで課役を免除された記事が



猪名寺廃寺塔心礎



国宝金銅威奈大村骨蔵器(複製) 原品=四天王寺蔵

とある。また、『続日本紀』大宝3(703)年7月条には、「正五位下猪名真人石前為備前守。」とみえ、右京大夫(708年・3月)に任ぜられ、和銅7(714)年1月条に「散位従四位下猪名真人石前卒。」と死亡の記事がみえる。大村とは同時に国史にみえ、位が常に1階高いことから兄とみる説がある。なお、威奈氏(真人)は、7世紀中頃から9世紀中頃まで、少なくとも17人の名前が国史等にみえる。位階は威奈鏡公の「大紫」は例外として、正六位上で初見の記事が多く、最後は従五位下または従四位下で終わっている。官職でみると、猪名真人法麻呂は斎宮頭(717年4月)に、為奈真人馬養は雅楽頭(741年7月)、為奈真人東麿は右京少進(749年6月)、為奈真人豊人は筑後守(783年2月)、造兵正(788年7月)、兵庫頭(789年3月)を歴任、為奈真人菅雄は大膳大進(863年10月)等がみえる。威奈氏が長らく中央の中級官人を保っていたことがわかる。

国史にみえる大村は、『続日本紀』大宝3年10月条と慶雲3(706)年1月条である。前者は「太上天皇御葬司。以二品徳積親王為御装長官。従四位下廣瀬王。正五位下石川朝臣宮麻呂。従五位下猪名真人大村為副。」とあり、持統天皇薨去の際、御葬司副長官に任じられたことを伝える。また、後者は、「以従五位上猪名真人大村為越後守。」とあり、越後守に任じた記事である。

墓誌銘によると、大村は宣化天皇四世孫で紫冠(律令三位相当)威奈鏡公の第3子とある。持統朝に初めて務廣肆(律令七位相当)を授かり、文武朝に勤廣肆(律令六位相当)に昇叙、その際、小納言に抜擢された。間もなく、直廣肆(律令五位相当)となり、大宝元(701)年の律令制定により、従五位下を授かり、侍従を兼ねた。同4年1月、従五位上に昇叙。翌慶雲2年、太政官左小弁を兼ねる。同年11月16日、越後城司に任ぜられた。同4年2月、正五位下に昇叙。同年4月24日、病のため越後城で没した。享年46歳。同年11月21日、大倭国葛木下郡山君里狛井山崗(香芝市六虫)に帰葬された。

二上山麓の火葬墓と墓誌

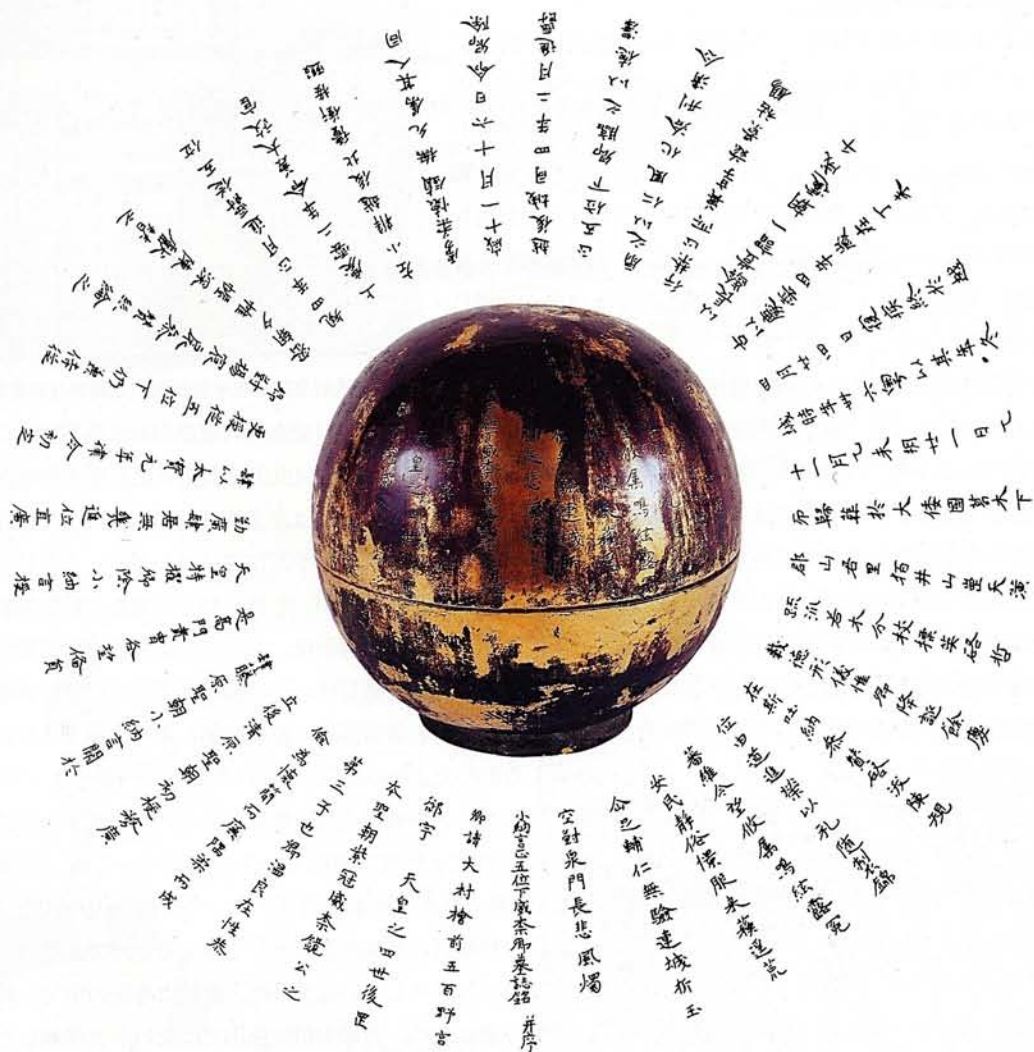
二上山麓は多くの陵墓や墳墓が存在する地域であるが、とくに注目されるのは火葬墓である。火葬墓は、遺骸を火葬した後、遺骨を容器(骨蔵器)に納めて埋葬した墓で、骨蔵器には、土師器や須恵器の壺や甕、ガラス製や金銅製、漆製などがある。その場合、直接土中に埋葬する場合と、石囲みや外容器として石櫃や木櫃などに納める場合がある。また、死者の氏姓や官位、あるいは経歴などを鉄や銅、石などに刻んだ墓誌を伴う場合がある。



二上山(香芝市・千股池から)

ある。いずれにしても宣化天皇の皇子の後裔と称していたことは確かである。

威奈氏(人名)が史料にみえる初見は、『日本書紀』白雉1(650)年2月条に「三国公麻呂・猪名公高見・三輪君瓊徳・紀臣乎麻呂岐太、四人、代執雉輿、而進殿前。」とあり、穴戸で白雉が捕れ、献上された祝いの席で雉の輿を執っている。高見については、『日本書紀』天武1(672)年12月条に「是月、大紫韋那公高見薨。」と死亡の記事がみえるが、威奈大村骨蔵器銘(以下「墓誌銘」とする)にみえる大村の父、威奈鏡公と同一人とみる説がある。また、同年6月条に「則以韋那公磐鋏・書直樂・忍坂直大摩侶、遣于東国。」とみえ、壬申の乱において磐鋏が近江方の将として東国へ派遣されたが、不破道で伏兵に襲われ逃走した



威奈大村骨蔵器墓誌銘（文献③）

二上山麓の火葬墓をみると、奈良県側では、香芝市穴虫で威奈大村骨蔵器（慶雲4・707年）、穴虫古墓の凝灰岩製石櫃が発見され、発掘調査では複数者を合葬した高山火葬墓が検出されている。葛城市加守では、金銅製骨蔵器、火野谷山の銅製骨蔵器などがある。大阪府側では、太子町で高屋枚人墓誌（宝亀7・776年）や紀吉継墓誌（延暦3・784年）が発見され、他に千軒堂の凝灰岩製石櫃に須恵器短頸壺を伴うもの、松山山城の発掘調査では2基の火葬墓を検出した。また、柏原市でも船氏王後墓誌（668年）が発見され、他に平尾山雁多尾畑49支群や田辺墳墓群などが検出されている。墓誌は全国で16例発見されているが、そのうち4例が二上山麓であり、7～8世紀において、二上山麓が古代官人の公葬地として強く意識されていたことがわかる。

大村がなぜ大倭国葛木下郡山君里狛井山崗に葬られたのか。前述の威奈氏の本拠地「為奈郷」へ帰葬されたということであれば理解できるが、本地域と威奈氏との関係は皆無である。このことから、越後で没し、大和へ帰葬され、公葬地であった二上山麓に埋葬されたと考えるほうがわかりやすい。



高山火葬墓（香芝市高山台）検出状況

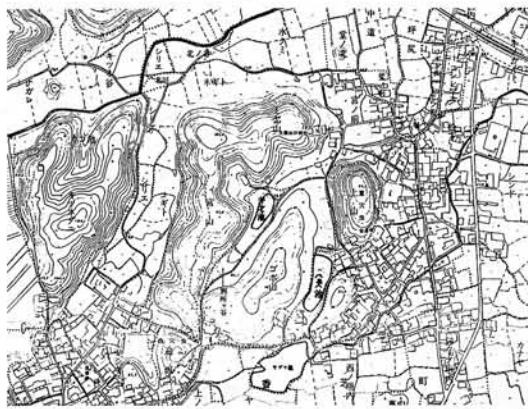
威奈大村骨蔵器の発見

威奈大村骨蔵器は金銅製で、総高24.2cm、径24.4cmである。中央やや下寄りて蓋と身を合わせた球形の容器で、身に高台が付く。全体的に薄く仕上げられ、身の底部にさがるほど薄くなり、高台の周辺はとくに薄い。蓋には「小納言正五位下威奈卿墓誌銘并序」で始まる墓誌銘391文字が10字詰め39行で放射状に陰刻されている。内容は序に大村の出自・人物像・官歴・卒時・年齢・葬地を記し、末に大村の人格の高さと生前の功績について称賛している。

この骨蔵器が発見された当時の経緯は、摂津住吉霊松寺の僧義端(1732-1803)による「威奈卿銅槩墓誌銘考」と木村兼葎堂(1736-1802)の「威奈大村墓誌銅器来由私記」に詳しい。それによると、明和年間(1770年以前)、和州葛下郡馬場村の農夫が穴虫山で開墾中に大甕を伏せた下から骨蔵器を発見した。その中には火葬骨を納めた円形の漆器があった。農夫は浄土真宗であったので、火葬骨は京都大谷廟に納めた。漆器の所在は不明である。骨蔵器は農夫が純金と思い手許に置いていたが、どう見ても銅製であるので安遊寺に施入したとある。地元で銘文の判読はできなかったが、布教活動で当地を訪れた僧義端に見せたところ、上古の貴人の墓誌と解し、銘文を写して考証を行った。帰阪後、交遊のあった木村兼葎堂に現物の骨蔵器とともにこの情報を伝えたところ、兼葎堂は前述の考証記を著した。その後、四天王寺明静院諦順が大谷廟で庶民と大村が墓穴を同じくするのは忍びないとして、遺骨と骨蔵器を一緒に埋納しようと購求したが実現しなかった。そのため、現在四天王寺の所蔵となっている。



「威奈大村墓誌銅器来由私記」徳島県立図書館蔵



ゴボ山付近の条里図(文献②)

これらの骨蔵器発見の顛末とその考証に関する記述では詳しい出土状況は不明で、出土地についても「穴虫山」、「埋葬ノ地名大和志二所見ナシ、今ノ穴虫山ハ其時ノ狛井山、馬場村ハ所謂山君里カ」とみえるだけで、その当時すでははっきりしていなかった。義端は考証の中で、村人で知る者はなく、道場山が穴虫山ではないかと推測した。そのため、現在のゴボ山(御坊山)が道場山であり発見地とされている。なお、狛井の地名考証により、大坂山口神社(穴虫)の南に位置する上山とする説もある。

引用文献

- ① 尼崎市教育委員会編 1984 『尼崎市猪名寺廃寺跡』(尼崎市文化財調査報告第16集)
- ② 奈良県立橿原考古学研究所編 1980 『大和国条里復原図』
- ③ 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館編 1979 『日本古代の墓誌』

展示協力者・資料提供者

尼崎市教育委員会 大阪府立近つ飛鳥博物館 柏原市立歴史資料館 四天王寺 太子町教育委員会 徳島県立図書館
池田貴則 岡田 務 岡村直樹 小栗 梓 小浜 成 藤田憲司 益田日吉 安村俊史

企画展記念講演会

「日本古代の墓誌～威奈卿墓誌銘を読む～」

講師 東野治之氏・奈良大学教授
日時 3/3(土)午後2時～(1時間開場)
会場 ふたかみ文化センター・市民ホール
定員 300人(当日先着順)
*当日発行の二上山博物館特別観覧券が必要です。

展示解説シート No.1

平成19年2月3日発行

香芝市二上山博物館

〒639-0243 奈良県香芝市藤山一丁目17番17号
TEL.0745-77-1700 FAX.0745-77-1601